

令和5年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

小学校 生活科

改善の重点

- ① 気付いたことを基に考えることができるようにするために、見付ける、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動を行うようにすること。
- ② 単元のまとまりを見通して、1人1台端末などの情報機器について、その特質を踏まえ、児童の発達の段階や特性、生活科の特質などに応じて適切に活用すること。

1 設定理由

生活科の目標の冒頭に「具体的な活動や体験を通して」とある。これは、子どもが体全体で身近な環境に直接働きかける創造的な行為が行われることを重視していることを示している。一人一人の子どもの思いや願いを実現していく一連の学習活動の中で、直接対象と関わる体験活動と表現活動とが豊かに行き来する相互作用を充実させることが大切である。

また、気付いたことを基に考えることで、一つ一つの気づきが関連付けられた気づきへと質的に高まる。そのためには、見付ける、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動を行うことが重要である。右は、気づきの質の高まりを示している。児童の気づきは教師が行う単元構成や学習環境の設定、学習指導や観点別の学習状況についての評価によって高まることから、これまで以上に意図的・計画的・組織的な授業づくりが求められる。

「気づきの質が高まる」とは

- 無自覚だった気づきが自覚される。
(気づきを自覚する)
- 個別の気づきが関連付けられる。
(関連付ける)
- 対象のみならず、自分自身についての気づきが生まれる。
(視点を変えて捉える)

1人1台端末については、その効果的な活用が期待される。生活科の指導における1人1台端末の活用については、学習指導要領の規定を踏まえ、低学年の子どもの発達の段階や特性に十分配慮して、資質・能力の育成に向けて効果が上がるように、より一層計画的に取り入れることが重要である。また、学習評価については、日々の授業の中で子どもの学習状況を適宜把握し指導の改善に生かすことに重点を置くことが大切である。

2 研究を進めるに当たって

(1) 実践に当たっては、以下の点に留意すること。

- ① 気づきの質を高めるため、試行錯誤や繰り返す場の設定、伝え合い交流する場の工夫、振り返り表現する機会の工夫等、学びを豊かにする学習指導と評価を重視すること。
- ② 低学年の子どもらしさを生かした学習活動を展開しつつ、生活科の各内容を踏まえて構想した単元における資質・能力が確かに育成されるよう、1人1台端末を活用していくようにすること。

(2) 参考とすべき資料

- ① 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」国立教育政策研究所、令和2年6月
- ② 「StuDX Style 各教科等における1人1台端末の活用事例」文部科学省